

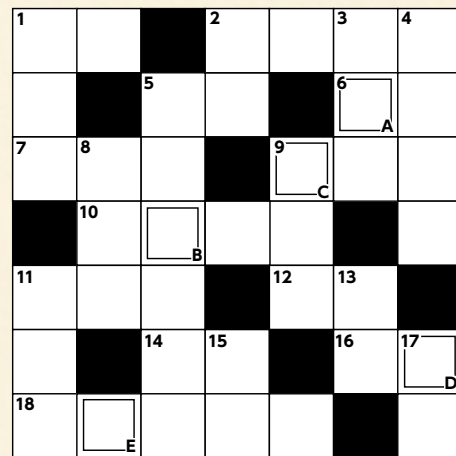
Merのキーワード! Crossword Puzzle クロスワードパズル

正解者から抽選で5人にクオカード(2000円分)を差し上げます。

□のマス目に「答え」が隠れています。パズルに言葉をあてはめ、□□□□□□の5文字を並べ替えてください(今号は「清流紀行」にヒントがあります)。タテ・ヨコのカギには特集記事にまつわる言葉もあります。ぜひ、チャレンジしてみてください!

二重マスを並べ替えてできる言葉

□ □ □ □ □



タテのカギ

- 1 弓形のもの。虹の○○○。
京都府内で京都市に次ぐ人口の第二都市・○○市。
「居合」の読み方は?
ローリング○○○○で災害に備えて飲料水や食料、消耗品を日常から備蓄(7ページ)。

5 商品を返品する際は○○○○○○で送ってください。

- 8 「把握」の読み方は?
服などをしまう家具。チェスト。
モツアレラ、ゴルゴンゾーラ、マスカルポーネは何の種類? ライオン。○○奮迅の働き。
○○夢中で走る。
代表的なライフライン、電気、○○、水道。

- 10 四字熟語、○○○○苦闘。
11 幼い頃から共に育った親しい友人、○○○○の友。
12 ネタをシャリの上にのせて握った料理。
14 菓子やケーキの風味付けにも使われるサトウキビが原料の蒸留酒。
16 琵琶湖がある県。
18 香住ガニとも呼ばれる紅○○○○○(10ページ)。

ヨコのカギ

- 1 ことわざ「濡れ手に○○」。
2 「ホーホケキョ」とさえずる鳥。
5 都道府県の首長。
6 立つ鳥○○を濁さず。
7 「千早」の読み方は?
9 腰から足先まである長靴下風の衣服。バレエやスポーツ、防寒用にも使用。

パズルの応募方法

EメールまたはFAXで、①パズルの解答「□□□□□」②住所・名前・電話番号③本誌を受け取った場所④今号で印象に残った記事⑤Merへのご感想を記入し、右記宛先へ。送信は1人1回のみ(複数応募は無効)とさせていただきます。

宛先

メール: koueki@uitech.jp

FAX: 06-4963-2087

締め切り/6月30日(月)。

※前号の答え= **カワサラシ** でした。多数のご応募、ありがとうございました。

Merとは

「Mer(メール)」とはフランス語で「海」を意味する言葉。命を育んだ海と、メッセージを伝える「メール(Mail)」の音を重ねています。本誌は、大阪府内を中心とした下水道情報を織り交ぜながら、水そのものや水環境、都市環境、水にかかる生産活動などに関する幅広い分野の情報を掲載しています。この冊子を通じて、これから水という大切で身近な存在を通して、私たちの暮らしと未来について考えていきます。

バックナンバーはホームページに掲載しています。 **都市技術センター** **検索**

人と地球のうろおい
マガジン・メール
2025年3月号

発行 一般財団法人 都市技術センター
〒541-0055 大阪市中央区船場中央2丁目2番5-206号 船場センタービル5号館2階
TEL 06-4963-2056 <https://uitech.jp/>

人と地球のうろおいマガジン

FREE
magazine

[メール]

Mer

vol.38

2025
March

清流紀行 P02

「北摂エリアを代表する芥川」(大阪府高槻市)

ガイアの瞳 P04

「いざという時のために~防災と“水”について考える~」

すいじんのまじわり
水人之交 P08

「香住高等学校で学ぶ海洋科学」(兵庫県美方郡)

大阪府内の下水道情報 P12

センターだより P14

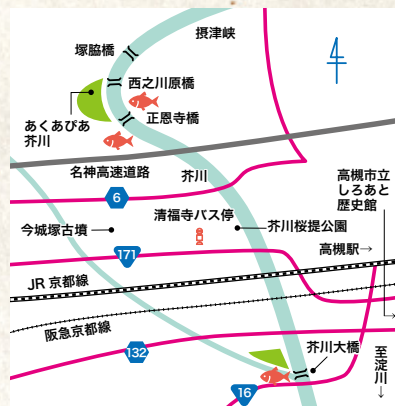
クロスワードパズル P16

芥川(高槻市)の空を泳ぐ鮮やかなこいのぼり

清流紀行

芥川
(大阪府高槻市)

北摂エリアを代表する



●魚道
■交通アクセス
【芥川桜堤公園まで】
JR高槻駅(北)から市営バス 5番乗り場／
68系統または70系統で「清福寺」下車、
東へ徒歩約6分 駐車場：なし



桜並木や空を泳ぐこいのぼり、
鮮やかな風景が広がる

両岸を桜が彩る、春の芥川

自然豊かな川辺は 市民のオアシス

高槻市を北から南へ縦断し、淀川へと流れる芥川は、大阪の北部、北摂山系に水源をもつ市内最大の河川です。中上流域に広がる渓谷・摂津峡は四季折々の風景が美しい景勝地で、ハイキングコースとしても知られています。豊かな自然環境に恵まれたこの川にはカワムツやオイカワなど約40種の淡水魚が生息し、夏には網を手で水遊びを楽しむ子どもたちや家族連れでにぎわいます。

JR高槻駅から市営バスに揺られ、バス停「清福寺」へ。川へと向かい東に5～6分歩くと、桜の名所「芥川桜堤公園」に到着します。両岸から水面へとせ



芥川の春を彩る川沿いの桜

り出すように咲きそろう桜並木は、市民が心待ちにしている春の風物詩です。続いて4月下旬から5月初めの「こいのぼりフェスタ1000」では、約1000匹のこいのぼりが園内に掲揚されます。子どもたちの成長と芥川の河川愛護を願い、1992年から毎年開催されているイベント。市内の幼稚園児たちによる手作りや、市民から寄付されたこいのぼりが悠々と青空を泳ぐさまは圧巻です。

市民参加の川づくりも 感じながら

芥川には、上流から下流にかけて、さまざまな形状の階段のようなものを見ることができます。これは、アユが遡上するための魚道です。2004年に下流の芥川大橋付近でアユが見つかったものの、川の中の段差のせいで遡上できなかったことをきっかけに、市民を中心にしたネットワークが立ち上がりました。3m以上の段差に土のうを2500個積み、実験的に手作りの魚道づくりに挑戦した結果、



遠方からも多くの人を訪れる
「こいのぼりフェスタ1000」



西之川原橋付近にある石でつくられた
川島井堰の魚道

段差を解消すればアユが上流に上れる
ことが証明されました。そのネットワークは



2011年に設置された、芥川最下流にある芥
川大堰の魚道(芥川大橋付近)

「芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク」、愛称「芥川倶楽部」と呼ばれ、この活動を後押しに官民連携で魚道の整備を進め、2011年から芥川に再び天然アユの姿が見られるようになりました。今では淀川合流点から摂津峡近くの塚脇橋まですべての高い段差に魚道が整い、さまざまな魚たちが上っていること



コの字型の隔壁を階段状に配置した、正恩寺
橋下流の魚道



多様な環境をもち、水質も良い市内最大の川



あくあびあ芥川2階のジオラマ水槽。
川に生息する淡水魚を飼育



健康づくり広場(アクトレ)やテニスコートが
ある芥川緑地

立ち寄り“水”SPOT

高槻の自然がわかる、
みんなの博物館
高槻市立自然博物館
あくあびあ芥川



芥川の中流にある博物館。芥川へ降りられる遊歩道もあります。2階の大水槽は高槻市北部の山あいから淀川につながる芥川の上流・中流・下流をイメージしたシンボリック存在。芥川に生息するカワムツ・オイカワ・コイなどの魚を間近で観察できます。昨年、開館30周年を記念した企画展では、館にまつわるエピソードが多数寄せられるなど、地域に根ざした博物館です。

開館時間/10時～17時
休館日/月曜(祝日の場合は翌平日)、年末年始
入館料/無料(特別展は除く)
アクセス/JR高槻駅(北)から市営バス
5番乗り場68または70系統
で「南平台小学校前」下車すぐ



子どもたちが水辺に親しめるイベントも
多数開催

ガアの瞳

いざという時のために ～防災と“水”について考える～

6400人を超える人命が奪われるなど、甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災から30年。この経験と教訓を継承し、一人ひとりが必要な情報を身につけることが、今後起こり得る自然災害への大きな備えとなります。災害時、食料とともに私たちの生命維持に欠かせない水にスポットをあて、備蓄品、防災グッズなど次世代へと伝えていくべき教訓について今一度学びを深めましょう。

大阪府北部地震の時に活用された応急給水タンク(高槻市)

断水に備え、家庭や事業所で 飲料水の備蓄を～自助～

なぜ、備蓄が必要なの？

大きな地震災害だけでなく、平成30年7月豪雨(西日本豪雨)や令和元年台風第15号・第19号などの風水害時には、長期間にわたって断水が発生。避難所などでは、飲料水を求める人々が長蛇の列をつくりました。

大阪市水道局によると、「蛇口から水が出なくなった非常時、水道局が応急給水車などにより水を供給します。しかし、道路が寸断して車の到着が遅れるなど、必要な水をすぐにお届けできるとは限りません。また、応急給水の行列に並び、ポリタンク等に入れた重い水を自宅まで持って帰ることは大変な労力です」。いざという時のために、日頃から飲料水の備蓄をしておくことが必要です。

備蓄に必要な量はどのくらい？

人が生命を維持するために必要な飲料水の量は、「1人1日あたり3リットル」と言われています。3日以上を目安に、家族の人数分を備蓄しておくといでしょう。



画像提供／大阪市水道局

水道水の備蓄(くみおき)方法

～水道水を容器に入れて備蓄します～

- 1 ペットボトルやポリタンクなど、ふたのできる容器を用意し、十分に洗う。
- 2 水道水を直接蛇口から容器に入れ、空気が残らないよう口元いっぱいまで満タんに。
- 3 しっかりふたをし、直接日光の当たらない冷暗所で保管。
- 4 水道水中の消毒用塩素が消失し、細菌が繁殖するおそれがあるため、3日程度で定期的に入れ替える。

★入れ替えた水④は、洗濯や草花の水やりなどに活用を!



画像提供／
大阪市水道局

Advice 水を運ぶための「ポリ容器」などの準備を！

応急給水拠点では水を運ぶための容器がないため、各自で容器を用意する必要があります。ポリ容器やペットボトルなど、水を入れる清潔な容器を持参しましょう。「水道局の備品はありますが、数に限りがあるため各自で準備をお願いします」(大阪市水道局)。

1人あたり3日分として必要な水9リットル。これは、9キログラムの重さに相当します。ポリ容器などに入れた水は重く、運ぶのはとても大変。そこで、それぞれの住環境に合わせて台車やリュックサックなど「運ぶための道具」も用意しておく、いざという時安心です。



画像提供／
大阪市水道局

スムーズな応急給水を目指して～共助～

市民による自主的な運営が肝要

災害時に断水が起こった場合、水道局は必要な場所に応急給水拠点として組み立て式給水タンクや仮設水槽、仮設給水栓を設置します。ただし、水道局職員は市内各区や地域での応急給水拠点の設置や給水車で水の運搬に携わるため、一カ所にとどまることはできません。

このように、行政機関が対策を行う「公助」には限界があるのが現実。大規模災害時に備え、自分の身は自分で守る「自助」はもちろん、地域などで助け合う「共助」も非常に重要です。「避難所における円滑な応急給水拠点の運営について、ぜひ地域の皆さんのご協力をお願いします」(大阪市水道局)。



応急給水車(大阪市)

工夫を凝らした広報動画

【問い合わせ】

大阪市水道局 総務部総務課 メール: syomu@suido.city.osaka.jp

災害対策に関する取り組みを市民にわかりやすく伝えるために、動画による広報活動を進めている水道局。「もしもの時のために」シリーズでは、災害時の自助・共助についてそれぞれYouTubeで見ることができます。

▶「もしもの時のために『自助』」編



YouTube



▶「もしもの時のために『共助』」編



YouTube



防災、減災の大切さを伝える >>>>

■助かる力、助ける力を学ぶ ～体験型防災学習施設「あべのタスカル」～

地震発生直後の街並みなどを体感し、消火・避難・救助といった一連の行動を体験できる「あべのタスカル」(大阪市立阿倍野防災センター)。南海トラフ巨大地震などの大災害に備え、自分の住む地域の特性に応じた災害危険を認識することで、必要な知識や技術を選択し学んでほしい。そんなメッセージが込められた体験型防災学習施設では、自身や家族を守り、街を守り、人を助ける体験と、日頃からの備えについても情報を発信しています。

あべのタスカル(大阪市立阿倍野防災センター)

住所/大阪市阿倍野区阿倍野筋3-13-23 電話/06-6643-1031

※各コースをツアー形式で体験(電話予約がベター)

開館時間/10:00～18:00(入館は17:30まで)

休館日/水曜・毎月最終木曜(祝日の場合は翌平日)・年末年始

入館料/無料



災害発生時の対応策(自助・共助)や日頃からの備えについて学びます



起震装置と映像により、実際の揺れを体験する「震度7体験」



防災グッズの数々を展示する「防災情報スクエア」



「防災用トイレ」も間近で見ることができます

災害の備えに……知っていますか? 「水電池」

防災・災害グッズとして注目されている「水電池」。その名の通り、水だけで発電できる特徴をもつ電池です。

災害対策に役立つ理由

- 1長期保存が可能(20年未満)**⇒通常の乾電池は未使用でもわずかに放電し続けるが、水電池は水を入れなければ放電しないため長期保存が可能。
- 2水以外でも発電可能**⇒ジュースや唾液など、水の成分を含んでいれば発電でき、断水時でも使える。
- 3繰り返し使用できる**⇒電力が弱まってきても、再度水を入れることで数回繰り返し使用可能。
- 4軽量**⇒水を入れる前は、重量が一般的な乾電池の65%ほどのため、持ち出しにも便利。

また、有害物質である水銀やカドミウムなどを含んでいないため、使い終わった後は一般の不燃物として廃棄できます。繰り返し長く使え、環境にも配慮された「水電池」。防災グッズの一つとして、検討するのいいですね。



長期保存が可能な水電池／画像提供:ナカバヤシ(株)

■日々の生活で備蓄を意識し、継続を ～「人と防災未来センター」～

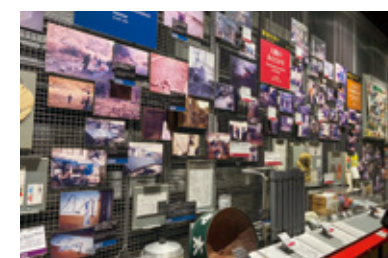
「『備蓄』と聞くと、防災のために特別なものをそろえなければ……と構える方が多いのではないだろうか」。そう語るのは、阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」(神戸市中央区)の池端祐一郎さん。同センターは大震災の経験と教訓を受け継ぐべく、映像や実物資料などで震災を追体験する展示をはじめ、防災のあり方について学ぶことのできる施設です。研究員として勤務する池端さんは、小学生の防災セミナーや出前授業、教員向けの研修などにも幅広く携わっています。「参加される方や地域の特色に合わせて、実体験も踏まえながらわかりやすく伝えることを心がけています」(池端さん)。

「生きるため」の備えの多くは、実は日用品の中にあるもので賄えます。普段飲んでいる水、食べているものを少し多めに準備すると、非常時に役立ちます。「長期保存可能な水をわざわざ買わなくても、いつもの水で大丈夫。食べ慣れない災害食より、家族が好きな缶詰や消耗品を“多めに”ストックしておく。これらを、消費期限が近づいてきたものから飲み、食べていく(ローリングストック)。そうすることで、ストレスなく自然に備蓄ができます」(池端さん)。

大切なのは、「備蓄を意識し、継続していくこと」。難しく考えず、まずは身近な備えから始めてみませんか。



海のそば、ガラス貼りの外観が目印



震災関係資料を提供者の体験談と共に展示(西館3F)



防災をテーマにした小学生のポスターコンクールは力作がズラリ

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

住所/神戸市中央区臨浜海岸通1-5-2

電話/078-262-5050

開館時間/9:30～17:30(入館は16:30まで)

休館日/月曜(祝日または振替休日の場合は翌平日)・年末年始

入館料/《共通》大人600円・大学生450円、

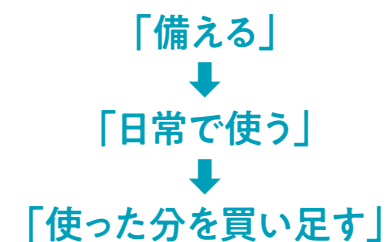
《東館のみ》大人300円・大学生200円

※高校生以下、および毎月17日は入館料無料

「ローリングストック」とは

災害に備えて飲料水や食料、消耗品の備蓄の必要性を感じていても、実際には日頃から準備しておくのがなかなか難しいものです。

近年よく耳にする「ローリングストック」とは、



を繰り返すことで、日常から一定量を備蓄しておく方法です。

こうすることで、無理なく・無駄なく・消費期限を気にすることなく、家庭で備蓄することができます。

水のローリングストックイメージ



画像提供/大阪市水道局

水人交

すいじんの
まじわり

日本海を見渡し、
広き心を育む

日本海沿岸の特色を生かす学び

漁業・操船・船舶の仕組みを学ぶ「オーシャンコース」、食品の調理や加工などについて学ぶ「シーフードコース」、生物や環境に関する知識・技術の習得を目指す「アクアコース」。県内唯一の海洋科学科では1年次に水産の基礎を学んだ後、2年次からはそれぞれの適性と進路希望に応じて三つのコースに分かれ、専門分野の学習へ進みます。

独自のカリキュラムに引かれ、「阪神間や淡路島など遠方からの受検者も多く、倍率が2倍近くになった年もありました」(森澄実校長)。近隣の水族館での就業体験や地元旅館の板前による調理実習など、特色ある授業が展開されています。

Topics

巨大なスクリューは50周年記念モニュメント!

正門を入ると現れる重厚感たっぷりのモニュメント「躍進の羽根」は1996年、創立50周年を記念して設置されたもの。その前身は4万3680トンの大型船で、スクリューは香川県から巨大トレーラーで運び込まれました。「ちなみに、わが校の実習船(但州丸)は358トン。どれだけ大きな船だったか想像できるでしょう」(森澄校長)。いざ到着すると校門から入らず、用意した台座にも乗りきらないことが判明。急ぎょ校門や台座を新しくして……と、先生方にとって実に思い出深い羽根なのだそう。創立80周年を迎える2025年は、秋に記念式典が予定されています。



生徒たちを見守る「躍進の羽根」



漁業航海実習の出港式(香住湾)

香住高等学校で学ぶ 海洋科学(兵庫県美方郡香美町)

海が見える絶好のロケーションを誇る香住高等学校は、普通科と海洋科学科、二つの学科を設置するユニークな高校。普通科は香美町在住の子どもたちの主な進学先の一つで、一方の海洋科学科は県内全域からの出願が可能です。近畿全域で、水産の学びができる高校は2校のみ。海洋科学科ならではの独自の取り組みや生徒たちの思い、地域とのつながりにせまります。



大型実習船「但州丸」



特色ある三つのコースで、学びを深める

船舶運航、漁業のプロフェッショナルを目指す!

オーシャンコース[海洋技術類型]

船の操舵や船舶などの知識を学び、大型実習船「但州丸」での漁業航海実習を通して、専門的技術を身に付けます。

主な実習 沿岸航海、トロール漁業、イカ釣り、たこつぼ漁など



但州丸での操船実習



日本海、瀬戸内海、太平洋で漁の実習をします

水産物の調理・加工のプロフェッショナルを目指す!

シーフードコース[食品科学類型]

食品の調理・加工などについて、栄養、食文化、食品の流通と多様な学習をし、食のプロを目指します。魚の調理実習では、地元の旅館の板前など、和・洋の調理師を講師に招きます。

主な実習 新商品開発、サバ・マグロ缶詰づくり、シーフードクッキングなど



プロの調理師の包丁さばきを間近で見学



オーシャンコースがとったマグロを缶詰にします

水産資源を守り、活用するプロフェッショナルを目指す!

アクアコース[海洋環境類型]

アユ、ヤマメ、トラフグなどの飼育を通し、水産生物の栽培技術を身に付けます。海や川が間近にある恵まれた環境を生かし、即戦力となる人材を育成します。

主な実習 ダイビング、トラフグ・マス養殖、水族館就業体験など



ダイビング実習で日本海に飛び込みます!



城崎マリンワールドでの水族館就業体験

Voice

たつき
辻村焔毅さん
(3年生/進学)



海が好きで、「船に乗りたい」との思いで入学しました。航海実習では、操船・食事づくり・漁、三つの役割を交代で担います。昨年11月後半から51日間の実習に行きました。海の上での生活は逃げ場がなく協調性や忍耐力が必要です。実習を無事に終え、「船にかかわる職に就けたらいいな」という漠然とした思いから「縁の下で力持ちになる」その覚悟が決まったと思います。

Voice

とうじあゆむ
田路歩夢さん
(3年生/船内調理師として就職)



小型実習船「しりうす」で夏は海釣りを、冬は鹿の角で釣り針づくりをしました。ユニークな先生や志が同じ仲間恵まれ、専門的な学びが深められる3年間でした。進学にも就職にも道が開けています。「誰かのために食事を出したい」という思いから、海の上の調理師の世界に飛び込みます。卒業後も夢を叶えるために頑張ります!

Voice

すながわしょうや
砂川晶耶さん
(3年生/釣り具メーカーに就職)



この学校でしか学べないこととして印象に残っているのは、兵庫県庁での水槽の立ち上げです。エントランスに設置する水槽に香住の魚と、全国のどんな魚を入れるか、レイアウトはどうするのか。一から携われた貴重な経験です。城崎マリンワールドでの就業体験実習では、生き物相手の仕事の厳しさ、大変さを体感できました。生き物との距離が近い環境で、何事も深く学べたことが財産です。

Pick up

安全で快適な毎日を支える「若潮寮」

学校の敷地内にある香住高生専用の寮「若潮寮」。2018年のリニューアルでセキュリティをより高め、女子生徒の入居も可能になりました。1年次はホームシックになる生徒が多く、「コミュニケーションを取りながら、心のケアやフォローにあたっています」（海洋科学科：篠原健悟教諭）。全職員が交代で舎監を務め、安心安全に暮らし、勉強に専念できる環境を整えています。



セキュリティ面も安心の若潮寮

Voice 「自然を間近に感じながらの3年間」 加藤捺子さん（3年生／進学）

幼少の頃から生き物が好き！座学中心の高校よりも、川や自然と触れ合える環境に引かれて、思い切って寮生活に踏み出しました。「発酵と長期保存」の課題研究ではサメハンバーガーを考案したのが思い出深いです。個人で管理する水槽のアレンジを通して生き物が住む環境づくりへの興味が深まり、大学への進学を決めました。



interview

地域との触れ合いも貴重な経験

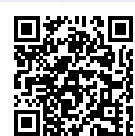
兵庫県立香住高等学校 海洋科学科：篠原健悟教諭



約2カ月にわたる漁業航海実習では食事づくり、操船、漁の三つの作業があり、自ら体験することが何より大切。入学時に抱いていた夢や希望が、2年次と3年次の航海実習を経てより具体的になっていきます。漠然と「船に乗りたい」から、原油船なのか調査船がいいのか？と。私も船に同乗し、全体の統括にあたります。

香住は「香住ガニ」と言われる紅ズワイガニやノドクロなどの特産が豊富で、加工業が盛んな町。地元の民宿や飲食店、商工会からオファーをいただき香住ガニや但馬牛すじの缶詰を製造したり、企画から携わることもあります。廃棄処分となる小さなノドクロの活用をと、但馬漁業協同組合と一緒に「炊き込みごはんの素」を作ったのは、生徒の発案でしたね。授業とは違う取り組みにワクワクし、地域の皆さんも高校生とのコミュニケーションや生徒目線の発想を喜んでくださっています。

卒業後も「ワクワク」を忘れず、水産業が身近な地域ならではの学びを存分に生かしながら、分野に限らず全国各地で活躍する人材になってほしいと思っています。



学校生活や部活動の様子をSNSで発信中



生徒が先生に～自然学校を開催！

毎年6月、小学生向けに「自然学校」を実施。他の地域から来た小学生に、工夫を凝らしたプログラムを提供しています。水槽を見学しながら魚の説明、缶詰づくりのサポートやワークショップの運営など、この期間は生徒が先生として大いに活躍します。



先生として教壇に立ちます



丁寧に魚の説明をします！

interview

素晴らしい環境で、唯一無二の学びを

兵庫県立香住高等学校：森澄 実校長



●一人一人が描く未来のために

教師としての私の初任地は香住高。海洋科学科の担任や学科長として28年間勤務し、他校での教頭を経て2024年度に校長に就任しました。教え子の子どもが入学してくるなど、うれしい出会いもありますね。特に海洋科学科は「将来こういうことをやりたい!」と明確な目的意識を持っている生徒が多いと感じます。私自身も一人ひとりへの声かけを心がけています。

オーシャンコースの漁業航海実習の出港式と下船式はコロナ禍での中止を経て、2024年に再開。無事に帰ってくることを願いながら生徒や町民の皆さんと一緒に見送ります。夏は海水浴、冬はカニ。「水産業のまち」香住は、民宿業をはじめ、漁師や加工業が主です。近年は普通科にも短期航海や缶詰づくりなど水産のカリキュラムを追加しました。このまちで育って普通科を卒業し、他府県に進学し戻ってくる子たちもいる。いざ「家業を継ぐ」となったとき、少しでも役に立つようにとの思いからです。

●夢の実現に向け、かけがえのない3年間で

今朝はホームルームで阪神・淡路大震災30年の追悼メッセージを全校放送しました（※取材日は2025年1月17日）。当時私は若潮寮の舎監当番で泊まり込んでいて、明け方に揺れました。寮にいた一人の男子生徒の実家が危ないと知らせを受け、動揺する彼をとにかく落ち着かせて。その後、誰からとなく寄付を募る声があがり、生徒たちもお小遣いを出し合い、集まった義援金を生徒の実家へ届けました。昨秋、神戸で行われたイベントに当校も参加し、なんとその彼が奥さん（当時の同級生）と足を運んでくれました。変わらず元気ががんばっている姿を見られて感無量でしたね。

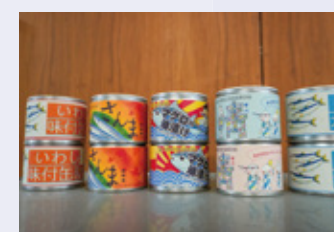
ここ香住は人情のまちで、活気やエネルギーを感じます。とれすぎた魚を隣近所に配ったり、卒業生の漁師が大量の魚を手にはふり遊びに来ることも多いです。楽しく忙しく働いている近況報告と、成長した姿を見られることは私たちにとって何よりの励み。日本海を見渡せるこの場所で過ごしたかけがえのない日々が、彼・彼女たちの人生の糧になるように願っています。

●兵庫県立香住高等学校

兵庫県美方郡香美町香住区矢田40-1 <https://www.hyogo-c.ed.jp/~kasumi-hs/>



地域をあげて見送る出港式



高校生がつくったさまざまな缶詰



学校はJR香住駅から徒歩約20分

Topics

近隣の民宿も受検生を応援!

香住高の周辺には宿泊施設が点在し、間近に立つ民宿もあります。遠方から家族と共に泊まりに来る中学生たちで、推薦入試・一般入試の前日はいつも満室に。「がんばれ!と心の中でエールを送りながら、駅までの送迎や食事の提供をしています」（民宿ひろや・関 守さん）。香住のまちに根ざした学びやを、地域全体が温かく見守っています。



温泉のある海鮮宿「ひろや」は香住高から徒歩3分



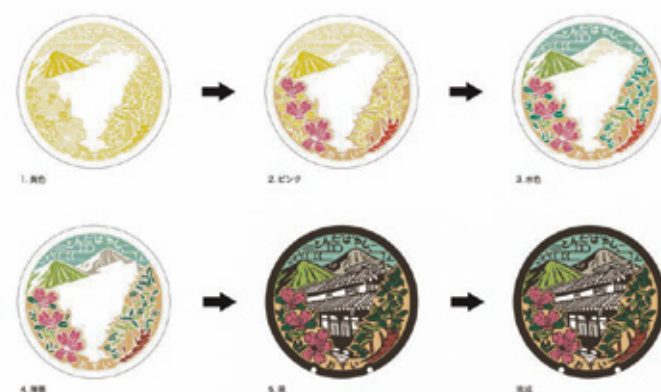
海の幸たっぷりの朝食を提供

5色のスタンプを重ねて!

マンホールスタンプラリーで 下水道事業をPR

マンホールスタンプ導入の経緯

下水道事業の新たなPRツールを探していた時にマンホールスタンプラリーを知り、下水道事業のPRだけでなく市のPRにもつながるツールとして導入を決めました。



スタンプ設置施設をまわり、複数の色のスタンプを重ねて押していくスタンプラリー

富田林市の マンホール蓋デザインの由来

市域を貫通する一級河川・石川。そして、富田林にゆかりのある楠木正成の家紋「菊水」をイメージした流水紋。この二つを組み合わせて空に見立て、背景に金剛・葛城山系、手前に重要文化財「旧杉山家住宅」と市の木「くすの木」、市の花「つつじ」を描いたマンホール蓋です。

杉山家は富田林発祥の地「富田林寺内町」の創設に関わった旧家の一つ。現存する家屋は寺内町で最も古く、江戸時代中期の大規模商家の遺構として、国の重要文化財に指定されています。文化と歴史と自然の融合によってデザインされた本マンホール蓋は、「市民の協力と連帯のもと、伸びゆく富田林市」を表現しています。



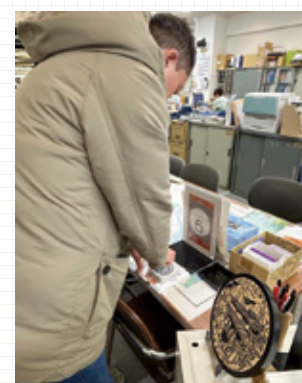
マンホールスタンプを使った 下水道のPR

市内の観光を楽しんでもらいつつ、下水道事業についても興味を持ってもらうため、大阪府唯一の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている「富田林寺内町」や下水道ゆかりの施設など5カ所を回るスタンプラリーを常設で開催しています。

また、大阪府と府内市町村が共同で実施した下水道PRイベント「大阪マンホールEXPO～親子で楽しむ下水道～」や市内のイベント等でも下水道事業のPRツールとして活用しています。



常設のマンホールスタンプラリー



「大阪マンホールEXPO～親子で楽しむ下水道～」



下水道事業のさらなるPRに向けて

イベントに参加いただいた方からは「子どもとワイワイ言いながら楽しくできた」や「下水道事業のクイズで、分流式という言葉を知って勉強になった」等、さまざまな感想をいただきました。

マンホールスタンプを活用した取り組みは、新聞社や地域のコミュニティ紙の取材も受けており、今後もさまざまな場面で下水道事業のPRツールとして活用していきたいと考えています。



イベントには、たくさん子どもたちにも参加いただきました。

次世代の下水道を共に考える 下水道技術講習会を開催しました！

当財団で行う公益事業の一環で、大阪府内の自治体で下水道事業に携わる職員を対象とした下水道技術講習会を開催しました。

近年の社会経済情勢や事業フェーズの変化により、下水道事業を取り巻く環境は、人・モノ・カネそれぞれの観点で厳しさを増しています。この時代の変化にしなやかに対応する下水道事業、次世代につなげる未来の下水道について講演していただきました。

また、各自治体では限られた職員数の中、今後増加してくる老朽化施設へ対応するため、さまざまな施策を検討されていますが、効率的な設計施工法を試験的に導入されている自治体(堺市上下水道局)から、その具体例について講演いただきました。

毎年、その時に旬となる事柄に関して講演いただき、今回も講演後の質疑応答で盛りあがりしました。

- 名 称** 令和6年度下水道技術講習会
主 催 一般財団法人都市技術センター
後 援 大阪府 都市整備部 下水道室
 大阪府下水道事業促進協議会公共下水道部会
日 時 令和7年2月28日(金) 13:30~16:30
場 所 エル・おおさか 本館5階 視聴覚室
演 題 「下水道事業の本当の魅力」について
 合同会社リレイトオール 代表社員 増田隆司氏
 (元国土交通省 下水道部 下水道事業課長、日本下水道事業団 副理事長)
 「下水管路(改築)DB方式による設計・施工の効率化」について
 堺市 上下水道局 下水道管路部 井川直樹氏
参加者 大阪府および府内22自治体職員等68人(web視聴者18人を含む)



一般財団法人都市技術センター 渡瀬理事長の開会あいさつ(右から2人目)



合同会社リレイトオール 増田隆司氏の講演



堺市上下水道局下水道管路部 井川直樹氏の講演



講演視聴風景



講演視聴風景



大阪府都市整備部下水道室 丸毛室長の閉会あいさつ(中央)

Mer vol.38の作成に取材協力・写真提供をいただき、ありがとうございました。

- | | | | |
|---------------|------------------------|--------------|-------------|
| ▶ 清流紀行 | ・高槻市立自然博物館 あくあびあ芥川 | ▶ 水人之交 | ・兵庫県立香住高等学校 |
| ▶ ガイアの瞳 | ・大阪市水道局 総務部総務課 | | ・民宿ひろや |
| | ・大阪市消防局 予防課(地域防災) | | |
| | ・ナカバヤシ株式会社 大阪本社 | | |
| | ・阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター | | |